

【熊本】(一社)コン

クリートメンテナンス協会(JCMA、徳納武使会長)主催による「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2013」が4日、熊本市の熊本県教育会館で開催された。当日は約70人が参加。ASRや塩害等に有効な亜硝酸リチウムの圧入工法、剥落防止対策工法に関する約4時間の講演を熱心に聴講した。土木学会、日本コンクリート工学会、プレストレストコンクリート工学会などの後援。

JCMAでは、コンクリート構造物の維持管理技術に関するフォーラムを全国各地で開催。熊本は初めてで、九州地区では今月5日に大分市で開催したほか、18日に佐賀市、19日に長崎市で開催する。このフォーラムは、土木学会認定CPDプログラム(3・5単

位)。

講演に先立ち、徳納会長は「コンクリートの補修設計は難解だとよく聞か、補修のシナリオをデザインして、そのシナリオに沿って調査から診断、補修設計に取り組むと難しくはない」とし、「当協会は工法協会では

ないが、有効な新しい技術を議論しながら、推進している。その一つが『亜硝酸リチウム圧入工法』。この工法は、三つのNETIS技術の組み合わせであり、土木学会・材料学会・コンクリート工学会等で多く発表され、国内各地で多く採用されている」と全国的に注目度の高い工法であることを強調、「本日の講義内容が必ず、皆さんの業務の役にたつと確信している」とまとめた。

この後、講演に入り、極東興和の江良和徳氏(工学博士)が「コンク

リートの劣化と補修工法選定の考え方」をテーマに、コンクリート構造物の主な劣化、劣化要因に応じた補修工法選定の考え方、亜硝酸リチウムを用いた補修工法について、具体的な事例を交えながら分かりやすく解説した。

このほか日本ペイントの中丸大輔氏(コンクリート診断士)が「コンクリート剥落防止と塗膜型剥落防止システムについて」と題し、塗るだけでコンクリート片の剥落を防止できる「割れない塗膜・タフガードQR工法」を紹介した。

コンクリート構造物の補修・補強 JCMAがフォーラム開催

